

「帝塚山大学における地域と連携した食育の取り組み」

帝塚山大学 現代生活学部 食物栄養学科
講師 岩橋明子

「国民が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性をはぐくむ」（食育基本法第1条）ことを目的として、平成17年6月に食育基本法が制定され、食育推進基本計画（平成18～22年度）及び第2次食育推進基本計画（平成23～27年度）が作成された。

その間、日常生活の基盤である家庭や、学校、保育所等が子どもの食育を進め、都道府県、市町村、様々な関係機関・団体等、地域における多様な関係者が様々な形で食育を主体的に推進してきた。その結果、家庭、学校、保育所等における食育は着実に推進され、進展してきている。

しかしながら、特に若い世代では、健全な食生活を心がけている人が少なく、食に関する知識がないとする人も多い。また、他の世代と比べて、朝食欠食の割合が高く、栄養バランスに配慮した食生活を送っている人が少ないなど、健康や栄養に関する実践状況に課題が見受けられる。

そこで、平成28年度に作成された第3次食育推進計画では、今後5年間に特に取り組むべき重点課題の1つ目として「若い世代を中心とした食育の推進」をあげ、若い世代を中心として、食に関する知識を深め、意識を高め、心身の健康を増進する健全な食生活を実践することができるように食育を推進することとされている。

また、この計画において、食育に関する施策の実効性を高めていくためには、国、地方公共団体、教育関係者、農林漁業者、食品関連事業者、ボランティア等、食育に係る様々な関係者が主体的かつ多様に連携・協働して、地域レベルや国レベルのネットワークを築き、取組を推進していくことが極めて重要であるとされている。

大学生が行う食育活動は、主体となる学生自身の実践的な学びとなることはもちろんであるが、彼らが同世代や若い世代に対して行う活動は、より身近な存在からの働きかけであることから、対象者へも浸透しやすいものと考えられる。このため、大学においてはこうした学生たちの活動に対し、指導・支援を行うとともに、地域や各種団体等との連携にかかる調整を行うことが重要である。

帝塚山大学現代生活学部食物栄養学科においては、各教員がゼミナール活動やサークル活動の支援として学生が行う食育活動を支えている。本日は、帝

塚山大学が地域の自治体、各種団体や企業等と連携して行っている食育活動の一部を紹介させていただく。

講師プロフィール

岩橋 明子（いわはし あきこ）

帝塚山大学現代生活学部食物栄養学科 講師

管理栄養士・健康運動指導士

修士（生活科学）

専門：公衆栄養学

平成 6 年 3 月 大阪市立大学生活科学部食品栄養科学科卒

平成 28 年 3 月 大阪市立大学大学院生活科学研究科前期博士課程修了

平成 6 年 4 月～平成 24 年 3 月 奈良県職員（保健所、健康づくり担当課、保育・子育て支援担当課など）

平成 25 年 4 月より現職

誰もが健康でいきいきとした生活を送るための社会環境の整備に関する研究を専門とし、外食や中食を通じた働き盛りの健康づくりをテーマに取り組んでいます。